

ckversuche. *Alfred Krisch*. S. 531

Der magnetische Arbeitspunkt von Dauermagneten als Werkstoffkennzeichen und Abnahmewert. *Hans Neumann*. S. 539

— Heft 9 (September)

Zur thermodynamischen Analyse. V

*Willy Oelsen, Olaf Oelsen und Gerhard Heynert*. S. 549

Erfahrungen bei der spektralanalytischen Bestimmung der Spuren- und Begleitmente im Roheisen. *Carl Frick und Karl Friedrich Lauer*. S. 557

Tiegel aus Schmelzmagnesia für Vakuuminduktionsöfen. *Karl Heinz Köthemann, Helmut Treppschuh und Wilhelm Anton Fischer*. S. 563

Erschmelzung von Reinst Eisen nach dem Kohlenstoffreduktions-Verfahren und Kerbschlagzähigkeit-Temperatur-Kurven dieses Eisens. *Wilhelm Anton Fischer, Helmut Treppschuh und Karl Heinz Köthemann*. S. 567

Perlit- und Martensitbildung in Mangan-Hartstahl. *Klans Janssen und Werner Jellinghaus*. S. 573

Fehleraufzeichnung beim Überschall-Impuls-Lanzzeit-Verfahren. *Erich Martin und Karl Werner*. S. 579

Beispiel einer Praktischen Anwendung des Kontenrahmens der Eisen- und Stahlindustrie. *Jakob Bechberger*. S. 595

**Stahl u. Eisen 76** (1956) Heft 20

Die Instandhaltungs und Reparaturkosten (Begriff und Bedeutung-Erfassung-auswertung) *H. Ernst*. S. 1273~1283

Schwierigkeiten bei der Ofendruckregelung. *J. Rudolf*. S. 1284~1289

Richtlinien über einheitliche Abmessungen der Drehstrommotoren für Aussetzbetrieb in Hüttenwerken. *S. Hermann*. S. 1290~1291

Erfahrungen und Neuerungen an Drehstrom-Schleifring-läufer-Motoren für Aussetzbetrieb. *F. Werner*. S. 1292~1294

Drehstrommotoren mit geschweißtem Gehäuse

für Aussetzbetrieb. *E. Walter*. S. 1295~1297

Neuere Entwicklungen im ausländischen Eisenerzbergbau. *P. Eugen*. S. 1297~1301

国内最近刊行誌参考記事目次

—学協会誌—

**日本金属学会誌 20** (1956) 10

金属の冷間加工にもとづく硬度および組織分布の変化ならびにそれにもとづく諸現象について (7) 低温焼鈍の影響. 大田和一...540~544

金属の熱応力にもとづく硬度分布および機械的性質の変化と残留応力との関係ならびにこれらにおよぼす外力の影響. 大田和一...544~547

Ni-Cr 鋼の焼戻脆性と焼戻硬度について. 武井英雄...550~553

含B鋼の研究 (7) 低炭素-低合金鋼に対する微量B添加の影響. 今井勇之進...554~558

アルミ被覆鋼に関する研究, Pinhole と Aluminum Oxide について (4) Pinhole と鋼板の汚れについて (5) 嗟峨卓郎外...558~566

Fernico の熱処理について. 三戸 暁...566~569

Fe-Co 合金中の Fe の活量. 佐藤経郎外...584~588

**鑄物 28** (1956) 11

キューポラの羽口の研究 (2) 石川 潔外...791~797

溶銑炉操業における風函圧力について (特にコークスサイズの影響について) 沢田政雄...798~808

鑄鋼の酸素次精について. 菅野五郎...835~855

**溶接学会誌 25** (1956) 11

鋼の水素脆化に関する研究 (2) 大西 巖外...623~628

脆性遷移現象に対する X 線的考察. 渡辺正紀外...628~634

**産業機械** (1956) 11, No. 73

圧延機の最近の進歩並びに戦後新設された圧延設備. 横手義胤...5~11

コールドストリップミル. 山本秀平...12~20

ホットストリップミル. 里見 繁...21~26

最近の分塊圧延設備. 新井哲郎...27~32

錫メッキ装置について. 小島 大...33~40

鍛鋼ロール. 川口三郎...41~48

各種圧延機用鑄鋼ロールについて. 前川静弥外...49~57

—研究機関—

## 水曜会誌 13 (1956) 3

鉄系含油焼結金属の熱処理に関する研究 (I) 西村秀雄...135~138

鋼浴の脱酸反応  $Al_2O_3(s) = 2Al + 3O$  の平衡定数の熱力学的計算. 沢村 宏...142~144

## 東北大学研究所報告 8 (1956) 3.

Thermodynamic Activities in Iron-Cobalt Solid Solutions. T. Satow et alii. ... 502~510

Fluidized-Bed Roasting Pyrite. M. Watande et alius. ...511~531

## 機械試験所所報 10 (1956) 6

塩基性転炉法による脱クロムの研究. 田中竜男外... 230~236

## — 会社刊行誌 —

## 富士製鉄技報 5 (1956) 4

返鉄の焼結作業に及ぼす影響について. 渡辺秀夫外... 358~365

銑鉄のチル化について. 鳥取友治郎...366~375

鋳物銑の諸性質におよぼす微量元素の影響 (Ti の影響について) 恵藤文二...376~385

広畑 6 号均熱炉増設工事について. 野田郁也外... 404~415

鋼の酸素分析試料の採取法について. 鶴野達二外... 426~434

## 日立評論 38 (1956) 11, No. 418

ダクタイル銑鉄の耐熱性について. 河本昭治...1437~1443

## 電気製鋼 27 (1956) 5

Cr-Mo 肌焼鋼の焼準及び恒温焼鈍について (1) 保田正文外...227~237

炭化珪素質取鋼煉瓦の実用試験. 錦織清治外 ...238~243

バルブ鋼の研究 (2). 錦織清治外...244~256

## — 科学技術庁金属材料技術研究所 —

本年 7 月 7 日より発足した総理府科学技術庁金属材料技術研究所 (略称: 材技研, 英文名 National Research Institute for Metals; 英文略称 N. R. I. M) は 11 月 2 日より東京都目黒区三田 13 番地旧海軍技研 (エビス, キャンプ) 跡に移転した。なお同所の所長は橋本宇一, 研究官小川芳樹, 部長は小西芳吉, 河田和美, 柳原 正, 遠藤勝治郎の諸氏である。電話は 大崎 (49)4525~9。

## — 鉄鋼ニュース —

(86 頁よりつづく)

## 矢作製鉄の酸素製銑炉

矢作製鉄では, 硫酸滓を原料とし銑鉄を得ると同時にアンモニアガスを併せ得る各種方式につき研究中であったが, 経済的にみて低炉による酸素製銑が最も有利であるとの結論をえたので, 近く総工費 3 億 2 千万円を投じて銑鉄日産 35 t, アンモニア日産 40 t, の全自動式酸素製銑炉の建設に着手することになった。

この方法の要領は, 焼結した硫酸滓とコークスとをトップチャージし, 羽口から酸素含有量を 50% 以上とした冷風を吹き込み製銑するというもので, これと同様の方式は欧州各国でも実用の気配にあり, また国内でも数社が試みているが, いずれもガス捕集を目的としているため銑鉄は実用できない状態で, ガス, 銑鉄ともに商品として利用するのは同社が初めてといわれる。